

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： 異常蠕動を有する食道アカラシアおよびその類縁疾患に対する内視鏡下筋層切開術（per-oral endoscopic myotomy；POEM）の効果や治療後 GERD に関する検討

研究の目的

食道アカラシアとは、食道と胃の接合部の下部食道括約筋（LES）が緩まなくなること、および正常な食道の蠕動運動が障害されることにより、食物の通過障害が生じる疾患です。そしてそのために胸痛や夜間の嘔吐、誤嚥性肺炎など様々な病態が引き起こされる可能性があります。一方で内視鏡下筋層切開術（per-oral endoscopic myotomy；POEM）による従来よりも低侵襲な治療が行われるようになり、良好な成績を得るようになりました。

食道アカラシアの中には、下部食道括約筋（LES）が緩まなくなることに加え、食道の異常な収縮があり症状の原因となる方がいます。また、Jackhammer食道やびまん性食道攣縮という、下部食道括約筋は問題ないものの食道の異常な収縮によりアカラシアに類似の症状が現れる方がいます。これらの方に対するPOEMの治療効果に関する報告は少ないのが現状です。特にJackhammer食道やびまん性食道攣縮ではPOEMの際に下部食道括約筋まで筋層切開を行うかどうかは、治療効果や治療後の逆流性食道炎（GERD）の発生割合など不明な点が多く現在も議論が続いております。

そこで、当院および昭和大学江東豊洲病院における、食道に異常収縮を伴う患者さんに対するPOEMの筋層切除範囲、POEM治療効果や治療後の逆流性食道炎の発生割合などを調べることで、今後これらの疾患に対する適切な治療が受けられるようにします。

研究実施期間： 実施許可日 ～ 2027年 3月 31日

対象となる方： 2014年1月～2023年12月までに当科および昭和大学江東豊洲病院でPOEMを受けた患者さん

利用させていただきたい試料・情報について

（他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

当院のカルテに記録されている情報のうち、年齢、性別、基礎疾患、治療の既往、内視鏡診断結果、食道内圧検査結果、食道造影結果、POEMの結果、POEM後の経過、治療後の逆流性食道炎の発生割合等について、標記研究課題実施のために利用します。

具体的には、Type III アカラシア、Jackhammer 食道、Distal esophageal spasm に対する POEM の治療成績、LES 温存 POEM の治療成績、術後の GERD の発生割合などの経過について検討し、POEM の際の筋層切開の長さとの逆流性食道炎の発生との関連などを解析します。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。匿名化された情報は昭和大学江東豊洲病院へ送付します。また、この情報は研究者以外に漏洩することが無いように細心の注意を払います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

本件連絡先	附属病院消化器内科、血液内科、免疫内科 立田哲也 連絡先電話番号 0172-33-5111
-------	--